

青梅市文化財ニュース

第246号

平成20年4月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859）

カワムツという魚が増えています

コイ科（ハエジャコ亜科）オイカワ属

オイカワ属の魚は、カワムツ、オイカワ（ヤマベ、バカッパヤ、オコゼッパヤなどと呼ばれる）の2種で、ともに側線が完全で下方に著しく湾曲しています。体色は、背部は褐色、腹部は白色で体側中央に暗藍色の幅広い縦条があります。体側の紋様はカワムツとオイカワでは対照的に異なります。体幅もオイカワより広く、ウロコも細かいです。体長は、10 cm前後のものが普通で、20cm を越えるものはまれです。

最近の研究により、側線鱗数や尻ビレ条数の異なるものがあることが解り、A型とB型に区別する様になりました。顔つきや色などもA型とB型とで異なり、遺伝的にも相違があるだけでなく、同じ場所で交雑することもあります。都内ではそのほとんどがB型です。

カワムツはもともと能登半島、静岡県大井川以西の本州、四国、九州の河川と湖沼に自然分布していましたが、過去における琵琶湖アユの放流に伴って移入し分布を広げました。国外では北東部を除く朝鮮半島、中国の四川、浙江そして台湾に分布しています。

川の上、中流域や比較的きれいな湖に生息しています。水温の比較的高い小河川を好む様で、青梅市内では主に東部の大荷田川や霞川、黒沢川などで最近になって急激に生息数を増やしています。

カワムツは流れの極端に緩やかな渚や堰堤下で多く見られ、岩影や樹木の下、ヨシが生えている場所など薄暗い場所に多く生息する傾向があります。あまり広範囲を泳ぎ回ることはありません。河川改修や護岸工事によって川が明るく開けて平瀬が多くなった場所はオイカワは好みますが、カワムツはその様なところは苦手で生活できず数を減らしてしま

（裏面に続く）

います。

食性は、流下してくる水生昆虫や、落下した陸生昆虫などの餌を待っています。時には小魚や付着藻類も食べます。

産卵期は5月～8月で、1対の雌雄に小型の雄を加えた集団が岸寄りの流れの緩やかな浅瀬や平瀬の砂礫内で産卵します。産卵期の成熟した雄は、尻ビレが長くなり、白い追い星が頭部や尻ビレの上に現われ、頭から腹にかけて朱色の婚姻色に染まります。卵は3日～5日で孵化（ふか）し、4、5日すると泳ぎ出して餌を食べるようになります。生後2年から3年で成熟し、産卵するようになります。

カワムツは、食用としては美味ではないですが、毒は無く、肉も多いので唐揚げなどにすると良い様です。釣りの対象としても釣り易い魚なので、ウグイ、オイカワと共に手軽に楽しめます。鱗がはがれやすく弱いオイカワに比べ、丈夫で飼育し易いです。

（文責 大久保 芳木）



カワムツ